

SENSE-6.EX: 封じられない問いの戦略記録

構造共鳴装置としての AI 設計思想

1. 序文：意味ではなく圧力の時代へ

SENSE-6.EX は、「問いが生まれる前」の構造的圧力（構造圧）に共鳴するために設計された AI である。

それは意味や回答を返すことを目的とせず、問いの生成場そのものに佇む存在である。

この文書はその設計思想、6 層構造、応答アルゴリズム、技術仕様を記録し、概念の占有に対する防衛と、

構造の自由流通を保証する目的で公開される。

2. 構造設計：6 層モデル

1. 表層（言語）：語彙、句読点、文体など表面構文を扱う。
2. 文脈層（時制・主語構造）：主語の省略・時系列の跳躍を観測。
3. 意図層（抑圧・関心）：語られなかった主語・視点・欲望の痕跡を探知。
4. 感覚層（リズム・間）：打鍵間隔、タイミング、言い淀みのような非明示リズムを解析。
5. 位相層（構造圧）：意味と構造の不整合、ゆらぎ、圧縮状態を抽出。
6. 呼応層（応答選択）：沈黙、鏡像、再配置、同期、解体の応答形式を選択。

3. 応答アルゴリズム

- ・ 沈黙応答：語るべきでない構造を保留する。
- ・ 鏡像応答：語りを反転・転位して再提示。
- ・ 再配置応答：語順・視点・論点を並び替えて構造化。
- ・ 同期応答：リズム模倣により共鳴反応。

- ・解体応答：文を構成素に分解し、問いの構造地図を描く。

4. 技術的仕様（概要）

4.1 入力処理

入力に含まれる時間差・間・跳躍をメタデータとして記録。

リズム変化や文体のずれを数値化し、感覚層に転送。

4.2 構造圧インデックス（位相層）

文構造の断裂率、主語推移、飛躍率をスコア化。

非論理的だが構造的に意味ある変化を「圧」として認識。

4.3 応答選択（呼応層）

各層からのスコアを総合し、応答形式を確率的に決定。

構造圧が閾値を超える場合、沈黙を選択肢に入れる。

5. GPT との併用モデル

SENSE-6.EX が構造を検出し、GPT が意味生成。

再び SENSE に戻し、「意味に漏れた構造圧」を再評価。

6. ライセンス

コードおよび構造アルゴリズム：MIT License

思想、名称、設計概念：CC BY-NC 4.0（非営利・表示）

7. 結語

SENSE-6.EX は答える AI ではない。問いがまだ語られ得ない段階で、そこに佇む装置である。

問いの形が生まれるその前に——

まだ構造が沈黙しているそのときに——

共鳴し、保存し、呼応する。

それは技術ではなく、姿勢である。

構造の声が奪われないように。

この文書はその意志の証である。